

2016  
~  
2017  
年度版

聖隷クリストファー大学

# 国際交流ガイドブック

International Exchange Guide



インド  
ケララ州

シンガポール

中国  
● 重慶

韓国  
● ソウル



アメリカ  
● ハワイ州

アメリカ  
● カリフォルニア州



ブラジル  
サンパウロ



保健医療福祉の総合大学

聖隷クリストファー大学

お問い合わせは[国際交流センター]へ

TEL 053-439-3263

ホームページ <http://blg.seirei.ac.jp/intl/top.html>



保健医療福祉の総合大学

聖隷クリストファー大学

# 学長・学部長メッセージ



小島 操子  
学長

## 国際人として活躍する為に

近年あらゆる分野でグローバル化が進み、国際的に活躍できる人材育成の必要性が高まっています。皆さんが志す保健医療福祉の分野においても物事の全体像を世界規模で捉え判断する国際的な視野を持つことがますます重要になっています。本学の教育で重視している「多職種の専門性を理解し、尊重し、対象となる人を中心に互いに連携・協働する」ということは、今や、医療福祉の分野で国際的なレベルで求められるようになっていきます。

本学には、交流協定を結ぶ中国・シンガポール・アメリカの教育機関での研修や実習のほかに、海外にある聖隷グループ施設での実習のプログラムなどがあり、国際的な感覚を身に付ける環境が整っています。是非この環境を利用して、学生時代に海外の保健医療福祉に触れ、同じ専門職を志す人々と交流を持ち、真の国際人として活躍するきっかけを掴んでください。



横尾 恵美子  
社会福祉学部長

## 今、海外を視野に入れているあなたに

この大学で学んでいる皆さんは、学生同士や教員、実習、ボランティア、アルバイトを通じて、多くの人と出会っているはず。そして入学前には考えられないほどの学びがあったのではないのでしょうか？

日本の中で、この小さな場所での考えられないほどの出会いを経験してきた皆さん、さらに自分の可能性を拡げてみませんか？

日本語圏を飛び出して、新たな出会い、挑戦を楽しんでみてください。そこには日本では気づくことのできない、壮大な学びと出会いが待っているはず。言葉の壁を乗り越えて、文化の異なる人々との出会い、それは新たな「知」の一步です。

新たな次代を担う皆さんが大きな翼で羽ばたいてくださることを期待しています。



藤本 栄子  
看護学部長

## トビタテJAPAN!トビタテ浜松!飛びたて三方原!!

あなたは、どこに向かって飛び立ちますか？

本学は、10年ほど前から海外の大学と交流協定を結び、学生達が相互に行き来でき、活発に交流できる機会を提供しています。Chanceは身近にあります。あなたは、海外研修・実習等に参加した学生達に共通することは、何だと思えますか？

それは、「あらゆる方法を使って積極的にコミュニケーションをとること」、「相手の思いやりに気づき感謝すること」、「学ぶとは何かを考えるようになること」、「(受入れ時)暖かく大事に一生懸命もてなすこと」などです。

若者が異文化に触れることは、考え方に変化を起こすような刺激的な体験になるようです。すばらしいですね。あなたも一歩踏み出してみませんか。



大城 昌平  
リハビリテーション学部長

## 世界を射程としたリハビリテーション専門職者の育成を目指す

本学の学位授与方針に基づき、リハビリテーション学部教育でも、多様な文化や価値観への理解と共感を持ち、グローバル化への志向性と、国際的視野を持って活躍できる語学力・表現能力を身につけることを教育目標の一つとしています。海外研修や実習を通して、同じリハビリテーション専門職者を目指す学生や教員・研究者、リハビリテーション対象者の方々と交流し、さらに社会・文化背景を直に経験し学ぶことで、国際的視野で物事をとらえる能力を養い、グローバルな視野で活躍する人材の育成を目指しています。世界は今、民族紛争や宗教対立、貧困と貧富の格差、失業、食糧問題、環境破壊、それらに基づく移民・難民やテロリズムの複雑かつ解決の糸口の見えない問題が山積しています。グローバル化とナショナリズムの狭間を超えて、世界の未来に貢献する人材が育つことを期待しています。

# 海外研修・実習・受入一覧

POINT 英語に自信が無くても事前研修で英語学修を行うため安心して参加できます。

<p><b>海外研修</b></p> <p><b>シンガポール研修</b> 9月(9日間)</p> <p> <b>シンガポール</b> ナンヤン理工学院 (交流協定締結校)</p>	<p><b>中国研修</b> 3月(9日間)</p> <p> <b>中国</b> 第三軍医大学 (交流協定締結校)</p>
<p><b>アメリカ看護研修</b> 3月(11日間)</p> <p> <b>アメリカ合衆国</b> カリフォルニア州 サミュエルメリット大学 (交流協定締結校)</p>	<p><b>アメリカ言語聴覚学研修</b> 3月(9日間)</p> <p> <b>アメリカ合衆国</b> ハワイ州 ハワイ大学マノア校</p>
<p><b>海外実習</b></p> <p><b>国際看護実習</b> 9月(2週間)</p> <p> <b>シンガポール</b> ナンヤン理工学院 (交流協定締結校)</p>	<p><b>研修生・実習生受入</b></p> <p><b>実習生受入</b> 看護:9月(3週間) OT:10月(2週間)</p> <p> <b>シンガポール</b> ナンヤン理工学院 (交流協定締結校)</p>
<p><b>国際作業療法実習</b> 3月(3週間)</p> <p> <b>シンガポール</b> ナンヤン理工学院 (交流協定締結校)</p>	<p><b>研修生受入</b> 6月(10日間)</p> <p> <b>アメリカ合衆国</b> カリフォルニア州 サミュエルメリット大学 (交流協定締結校)</p>
<p><b>国際福祉実習</b> 2月・8月(2~8週間)</p> <p> <b>インド</b> 聖隷希望の家(知的障害者教育施設) <b>ブラジル</b> 希望の家(重症心身障害者施設) <b>韓国</b> 児童養護施設 東明児童福祉センター 老人福祉施設 東明老人福祉センター</p>	<p><b>研修生受入</b> 3月(7日間)</p> <p> <b>シンガポール</b> ナンヤン理工学院 (交流協定締結校)</p>

※大学が主催する海外研修・実習に参加する学生には、万一の事態に備えて、海外旅行保険への加入や国内の緊急連絡先、緊急医療処置承諾書の提出を義務付けており、危機管理体制を強化するよう努めています。

## シンガポール研修

ナンヤン理工学院 (NYP) / 9日間 (9月) 約14万円



### 無限の可能性が 広がる海外研修



澤井 翔太 理学療法学科2年

私がこの研修に参加しようと思った当初の理由は、何となく海外に行ってみたいという思い付きのような感覚でした。しかし、事前研修を通じてシンガポールについて調べていくうちに、この場所で日本とは異なる文化や医療に触れてみたいと思う気持ちが強くなって行きました。

実際に研修では、日本という国を外から見ることで、社会制度や医療制度に関して今の日本の優れている点・劣っている点をより強く感じることができました。そして私が将来やるべきことに対する視野が広がりました。

今の住み慣れた環境と違うところに身を置くことは、自らの将来のために必要なことだと思います。その一つの方法が海外研修です。大学生となり周囲からは大人として見られるこの時期に、勇気を出して一歩踏み出してみてもいいでしょうか？

### 「海外に行きたい」の 思いがキッカケ



島津 由佳 看護学部2年

私は一度も海外に行ったことがなく、機会があれば行ってみたいと思っていました。そんな時に海外研修のチラシを見かけ、説明会に行った事が参加のきっかけです。

研修では、シンガポールの病院・施設の見学を通して日本の医療との違いを実感できました。印象的だったのは、シンガポールでは病室が金額に応じて5段階に分かれ、エアコンやテレビがないなどサービスが異なっていたことです。中には日本の様にカーテンや壁で仕切られておらず、ワンフロアすべてが見渡せるような開放的な病室もありました。プライバシーよりも患者同士、看護師間の交流を重視しているそうです。宗教に応じて食事が分かれていたことも、シンガポールならではの文化に触れることが出来ます。友達もたくさん出来ます。観光をしたり、グルメやスイーツを楽しんだりも出来ます。

初めての海外でも安心して行けましたし、学年が上がるにつれてどんどん忙しくなるので、「少しでも行きたい！」という気持ちがあれば、ぜひ参加して欲しいと思います。



## 施設・病院見学

### 大きな一歩を 踏み出せました



吉川 実里 看護学部2年

シンガポールは観光地として人気であり、誰でも観光で訪れて楽しむことはできると思います。でも、現地の病院・施設の中まで入って詳しく見学できる機会はなかなか得られません。その意味で、今回の研修は私にとって貴重な経験となりました。

シンガポールは日本と同様に高齢化社会であり、保健医療福祉の充実が喫緊の課題となっています。国民皆保険制度の日本とは異なり、政府の支出を抑えるため「自助」に重きを置いています。そのため病院の病室は、料金別に階級に分けられていました。また、海外の最先端医療を積極的に取り入れていて、最新の医療機器が数多く導入されていました。その他、障がい者支援施設なども整っていて、障がい者の社会復帰を支えていた点が印象的でした。

今回の研修に参加して、海外に目を向ける第一歩になりました。現地に行き、その国の制度や抱えている問題、優れた点が違うのだと改めて実感することができました。



●概要 9日間という短い期間ながら、国内主要医療施設の見学だけでなく、ナンヤン理工学院の学生との合同演習体験などが含まれ、同じ専門職を目指す同世代の学生との交流が多く持てるようにプログラムが組まれています。

日程	スケジュール
1	10:30 中部国際空港発→16:20 チャンギ国際空港着 ホストファミリーと対面しホストファミリー宅へ移動
2	ホストファミリーと過ごす
3	9:00 ~ 10:00 ヘルスサイエンス学部からの歓迎とオリエンテーション→ 10:30 ~ 12:30 講義：「シンガポールの社会制度」→12:30 ~ 14:30 歓迎昼食会→ 14:30 ~ 15:45 キャンパスツアー→16:00 ~ 17:30 講義：「シンガポールの医療制度」→ホテルへ
4	10:00 ~ 11:30 施設見学：タントクセン総合病院→12:00 ~ 14:30 昼食→ 14:30 ~ 16:30 施設見学：Society for the physically disabled (障害者就労支援施設)→ホテルへ
5	10:00 ~ 12:00 施設見学：セント・アンドリュース地域病院→12:30 ~ 14:00 昼食→ 14:00 ~ 16:00 学部ごとに分かれての研修→ホテルへ
6	8:00 ~ 9:00 施設見学：Ozworks Therapy Pte Ltd (リハビリ施設)→10:00 ~ 12:00 施設見学： アジア女性福祉協会→12:15 ~ 14:00 昼食→14:00 ~ 15:00 講義：「シンガポールの経済情勢」→ 15:30 ~ 17:00 お別れパーティ、文化交流、修了書授与→ホテルへ
7	10:00 ~ 14:00 振り返りのグループワーク・発表
8	9:00 ~ 10:00 博物館見学→10:00 ~ 20:00 フリータイム→20:00 ホテルから空港へ
9	1:20 チャンギ国際空港発→ 9:05 中部国際空港着

## 観光・料理



### シンガポールでの素敵な出会いと経験

加藤 美玖 看護学部3年

シンガポールでは、NYPの学生が様々なところに私たちを案内してくれたので、多くの有名な観光地へ行くことができました。中でも楽しかったのが、ナイトサファリやセントーサ島でした。まず、ナイトサファリでは、シンガポールで有名なチリクラブを食べました。これは、チリ、トマト等をブレンドしたピリ辛のソースの中にカニを入れてボイルした料理です。1つの料理をみんなで手で食べることは日本ではなかなか無いことなので、貴重な経験ができました。味もとてもおいしかったです。また、月明かりのような照明の演出の中、日本では見たことのない動物をたくさん見る事ができました。セントーサ島では、みんなでお菓子を持ち寄り、海でたくさん写真を撮ったりして遊びました。シンガポールの観光地は1つ1つがとても素敵で、ぜひいつかまた行きたいと思いました。



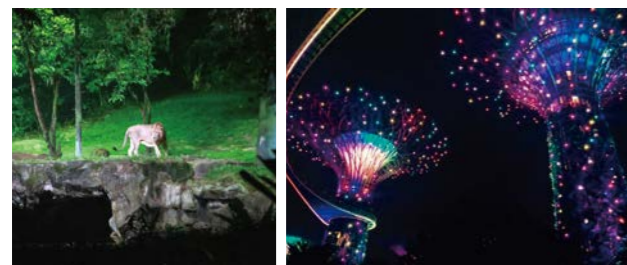
### マーライオンだけじゃない!

長島 晴香 看護学部3年

シンガポールといえば、何を思い浮かべますか?シンガポールに行ったら欠かせない観光地、マーライオンの周辺の魅力を紹介。まずは、マリナベイサンズ。屋上船の形のプールになっているホテルで有名です。プールの利用は宿泊者限定なのですが、一般観光客も中に入ることは出来ます。次に植物園。ここではナイトショーを見ることができます。夜の街に多くの光が放たれ、デートスポットでも人気だということです。この2つは『名探偵コナン 純黒の悪夢』のモデルになり、実際に映画に出て来ているんですこの周辺にはTSUJIRIや北海道アイスクリームなど日本でも有名なお店も並んでいました。日本人が店員のお店もあり、親しみを持つことができました。夜景を楽しむためにも、日が暮れてから観光するのがオススメです。



## ホームステイ体験談



### 海外に素敵な友人ができました

山内 則子 看護学部3年

海外へ行く事もホームステイをする事も初めてだった私は、英語が通じるのか?ホストファミリーと仲良く出来るのか?など不安ばかりでしたが、そんな心配はすぐなくなりました。研修の始めの二日間はホストファミリーが色々な観光地へ案内してくれました。シンガポールは檻や柵がほとんど見当たらず、自然な状態の動物たちを間近で見ることができました。個人的に一番気に入ったガーデンズ・バイ・ザ・ベイでは、夜間の幻想的なライトアップと音楽のショーに圧倒され、飛行機の疲れが吹っ飛びました。ホストファミリーはいつも優しく話しかけてくれ、一緒に行動してたくさん会話をするうちに互いの事を知ることができたので、一日が終わる頃にはすっかり打ち解けました。シンガポールの文化と魅力を体感すると同時に、「下手な英語でも恐れずにコミュニケーションをとろうと努力する姿勢が、外国の人と仲良くなる為には大切だ。」と学べたホームステイでした。



## 中国研修

第三軍医大学 (TMMU) / 9日間 (3月) 約15万円



第三軍医大学(中国重慶市)は1954年創立の国立基幹大学であり、医学の他に教育学、理学、工学、戦略管理の専門分野を提供しています。また、研修病院でもある3つの附属病院を擁し、総病床数は5,000床にもおよびます。

参加者 VOICE

### この経験を今後活かしていきたい

今回、中国研修に行き、中国の病院や大学を見学して、中国の医療や看護師養成制度、日本との違いなど様々なことを知る事が出来ました。また、学生交流を通して中国の友達ができ、国を越えて交流ができたことは、とても良い経験となりました。また、改めて自分の英語能力の低さが分かったので、この研修を機会に英語をより勉強したいと思います。この研修では様々なことを吸収することが出来たので、看護師として就職した時にこの経験を活かしていきたいです。

●概要 大学及び大学附属病院を中心に、講義の受講、現地学生との交流、保健医療福祉施設の訪問を通して中国の医療福祉について学びます。

日程	スケジュール
1	9:00 中部国際空港発→11:35 北京空港着 午後 施設見学：北京按摩医院→ホテルへ
2	午前 万里の長城見学→午後 天安門広場、故宮博物館見学→ホテルへ
3	午前 北京市内見学→14:30 北京空港発→17:00 重慶空港着→ホテルへ
4	終日 第三軍医大学でのプログラム 学部長・副学長からの歓迎、キャンパスツアー、講義：「人体標本について」「中国の看護システム」、歓迎夕食会→ホテルへ
5	午前 施設見学：地域健康福祉センター→午後 英語の授業見学、学生交流会→ホテルへ
6	終日 施設見学：第三軍医大学附属西南医院（外科病棟、リハビリテーション棟、がん病棟など）、講義：「看護ケア」→ホテルへ
7	午前 重慶市内観光（三峡博物館、磁器口）→16:30 重慶空港発→18:35 上海空港着→ホテルへ
8	11:30 上海空港発→14:40 中部国際空港着

## 海外英語研修



### 刺激いっぱいの毎日が待っています

名倉 由真 看護学部3年

私は海外で様々な出来事や人に触れ、視野を広げたいと思っていました。それを叶えるために長期休みを利用した短期留学は最適です。私はハワイに行きましたが、現地ではホームステイ先から大学へ路線バスで通い、スマホなどの機器も最低限しか使えない状態になりました。現地の人に道やバスの時間を尋ねることで積極的に英語を話す機会ができ、自分の力で行動する自信ができました。大学の授業はすべて英語でしたが、先生も優しくクラスは少人数なので英語に全く自信がなくても大丈夫です!授業後に友達とショッピングや観光をしたり、ホームステイ先では子供たちと遊んだり、毎日の出来事を話したり。とにかく毎日が刺激でいっぱい充実していて本当に楽しかったです!! 海外や他大学に友達ができ、日本に戻った今でも連絡を取ったり遊んだりしています♪



# アメリカ看護研修

サミュエルメリット大学 (SMU) / 11日間 (3月) 約28万円



## 今だからできた 貴重な体験

高柳 亜矢香 看護学部3年



今回の研修では多くのアメリカの文化や医療に触れ、日本とアメリカの違いや共通点を直に感じる事が出来ました。様々な施設を訪問させていただく中で日本には無い考え方や視点を知ることが出来ました。アメリカ看護研修に参加したことで、今まで目を向けてこなかったことに興味を持ち日本ではどうなのか、更に日本の医療について知りたいと感じるきっかけにもなりました。学生と交流する機会も多く、アメリカの看護学生の看護の勉強に対するモチベーションの高さを感じてとても刺激を受けました。交流する中で英語を使って伝える事の難しさや、楽しさも感じる事が出来ました。毎日が新しい発見と出会いの連続で、とても新鮮で貴重な体験だったと思います。

## 自分を成長させてくれた11日間

櫻井 優奈 看護学部3年



ずっと行きたかったアメリカと、この研修に参加でき、とても良い経験となりました。個人的に訪れたのでは体験できないような病院や施設の見学、サミュエルメリット大学での講義、アメリカの看護学生との意見交流などの関わりの中で、勉強への姿勢や看護師としてどんなことをしてみたいかを改めて考える事ができました。アメリカで勉強してみたり、働いてみたいと感じ、視野を広げることができました。また、アメリカの看護学生の友人もでき、とても良い刺激となりました。10日間の滞在でしたが、ホームステイやサンフランシスコの空気に触れ、他国の文化も体験することができました。研修に関わって下さった方々に感謝します。ありがとうございました。

## ホームステイ体験談



笑顔の大切さ 佐々木 美空 看護学部3年

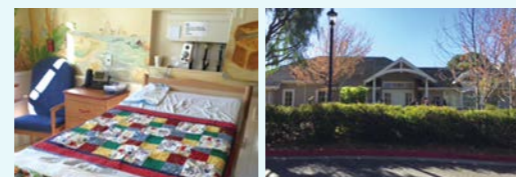
このホームステイで私は家族の絆や笑顔の大切さを再認識しました。私の滞在先のホストファミリーは両親と5歳の女の子と3歳の男の子の4人家族でした。私は日本から折り紙、だるま落とし、紙風船などの玩具を持って行ったのですが、遊び方、折り方を身ぶり手ぶりで伝える私をみんな理解しようとしてくれました。その姿に感動しました。普段、日常生活をしていく中でご当たり前のことと捉えがちですが、ホームステイをすることで、「笑顔の大切さ」、「相手を理解しようとする姿勢をみせることがいかに大事なのか」を学ぶことができました。これは看護を学ぶ私にとって一生の宝物になることでしょうか。人に喜ばれることを喜ぶことができる人間になりたいと思いました。

## 施設・病院見学



### 研修の真髄!! 施設見学

渥美 菜々 看護学部3年



保健医療福祉施設の見学では、①末期の小児患者が家族と最後の時間を静かに過ごすための小児ホスピス、②高齢者の自立支援に力を入れているデイサービス、③サンフランシスコの一等地に佇む高級老人ホーム、④黒人や貧困層に手厚いサポートを提供する老人ホーム、⑤アメリカの最先端の医療を備えた病院を見学しました。どの施設においても利用者個人の意見が尊重され、治療や支援のプランに反映されており、「個人」に合わせて多種多様かつ適切な支援が提供されていたことが印象的でした。今回、研修に参加したことで自分の価値観や視野が広がりました。講義や演習、保健医療福祉施設の見学を通して、アメリカの看護の実情や特徴、日本の看護との共通点や相違点を学ぶことができ、自分の中に新たな知識や経験として積み上げられたからです。今後、自身の飛躍の糧として十分に活用していきたいです。

# 観光・料理



## 本場の味に大満足!

高田 侑季 看護学部3年

アメリカでの食事は肉類、油ものも多く、日本と味付けの違うものがあるのがあって慣れるまで大変でした。ただ、近くのスーパーのブラウニーはとても美味しくて、部屋のみんまで一緒に食べたりすることがとても楽しく思い出に残っています。ホテルの近くのステーキ屋さんでは大きなお肉を友達とシェアして食べました!アメリカに行ったら大きな肉が食べたいと思っていたので夢が叶って嬉しいです。フィッシャーマンズワーフでもステーキを食べたのですが、日本語メニューもあって驚きましたこの地域でとれた鮭を使った鮭サンドも食べられて、アメリカを満喫出来た気がします。ただ、白米が食べられない、お茶が売ってないので、好きな方は持参するといいかもかもしれません。



## クラムチャウダー ケーブルカー アシカ

仙田 悠花 看護学部3年



日本とは全然違う景色、雰囲気、言葉、文化を感じることができ、私は研修中の移動時間はすべて観光気分を楽しむことができました。休日にSMUの学生が連れて行ってくれた"Fisherman's Wharf"ではクラムチャウダーを食べたりお土産を探したりアシカを見たり。この日は通訳さんがいないので自分たちで英語を使ってコミュニケーションをとることができてとても良い経験になりました。次の日は私たち聖隷の学生だけの自由時間。私はサンフランシスコ市内で買い物しました。日本より品数が多いので洋服や靴、化粧品などとても良い買い物できました。ケーブルカーやお店の外装など、すごくお洒落なので歩くだけでも楽しかったです。



●概要 大学内にある最先端のシミュレーションセンターでの演習のほか、講義の受講、地域病院や高齢者施設などの見学等を通して、看護先進国であるアメリカの看護や福祉事情について学びます。

日程	スケジュール
1	14:25 中部国際空港発→10:30 (アメリカ時間) サンフランシスコ国際空港着→サミュエルメリット大学へ
2	9:00 ~ 9:45 学部長・副学部長からの歓迎→10:00 ~ 11:00 講義:「アメリカのヘルスケアシステムにおける看護師の役割」→病院にて昼食→13:00 ~ 15:00 演習:「看護技術」→15:15 ~ 16:15 キャンパスツアー→16:30 ~ 18:00 SMUの学生によるウェルカムパーティー→ホテルへ
3	9:00 ~ 12:00 演習:シミュレーションラボにて→昼食→13:30 ~ 16:30 演習:シミュレーションラボにて→ホテルへ
4	9:30 ~ 11:30 施設見学: George Mark Children's House (小児ホスピス)→昼食→13:30 ~ 15:00 演習:「ヘルスアセスメント」→16:30 ~ 18:00 歓迎会→ホテルへ
5	10:00 ~ 13:00 施設見学: Center for Elders' Independence (高齢者自立支援センター)→13:00 ~ 14:30 昼食→14:30 ~ 16:30 講義:「アメリカのヘルスケア」→ホテルへ
6	9:00 ~ 16:00 サンフランシスコでの観光・ショッピング→16:00 ホストファミリーと対面
7	ホストファミリーと過ごす
8	9:00 ~ 11:30 演習:「SMUの学生の臨床体験」→昼食→13:00 ~ 16:00 施設見学: John Muir Concord 病院→ホテルへ
9	午前 施設見学: St Mary's Center (支援施設)、St Paul's Tower (高齢者施設)→午後は自由行動→17:00 ~ 18:30 お別れパーティー
10	12:10 サンフランシスコ国際空港発
11	18:10 中部国際空港着

## アメリカ言語聴覚学研修

ハワイ大学マノア校 (UH Manoa) / 9日間 (3月) 約32万円



### 勇気を出して 一歩踏み出そう!

平崎 真実 言語聴覚学科2年



私がこの研修に参加した動機は、海外に行ってみたかった事と友達に誘われたこともあります。日本と海外の言語聴覚士の違いを知る事で視野を広げられると思ったからです。研修を通して特に印象に残っているのは、障害を持つ児童や患者さんの家族とお話できた事です。本や新聞などから得る情報よりも直接お話を聞くことで、障害を持つ人への見方を変えることができました。他にも講義だけでなく多くの臨床現場を見学することができました。臨床を最初から最後まで見学することで、臨床現場を見る時のコツが分かり、考えの引き出しが増えました。言語聴覚士になった際にこの時の経験が役立つと思います。この研修に参加して多くのことを学び、大学生活の良い思い出をつくることができました。9日間とても充実していました。研修への参加を迷うのであれば、思い切って一歩前に踏み出してほしいです。



### 海外を体感しよう

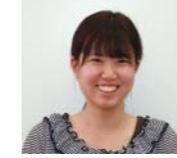
山崎 彩香 言語聴覚学科2年



私がこの研修に参加したきっかけは、アメリカの最先端医療の臨床や講義を見学することで、将来、自分が臨床に出る時に、最先端の治療を患者さんに提供できるようになるのではないかと考えたからです。研修で学んだことは、訓練には患者さんが身近に感じるアクティビティを取り入れることです。そうすることで患者さんは、訓練に集中して取り組むことができ、楽しい雰囲気を作り、治療の向上に繋がります。実際にハワイ大学の学生の臨床現場では、患者さんの好きなものや性格、タイプや特徴を捉えたうえでマニュアルを考え、当日の患者さんの様子に合わせて訓練を進めていました。皆さんも是非、ハワイ大学で最先端の言語聴覚士を感じてみてください。

## 観光・料理

岡村 優香 言語聴覚学科2年



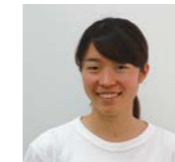
### 私の青春の1ページになりました

私達の泊まったホテルは、繁華街に近い所にあり、買い物に出かけるにも、ビーチに行くにも、とても便利でした。4日目の夕方、何人かでビーチに行って見た夕陽がとてもきれいで、青春していると実感できました。また、アラモアナセンター内にあるお店のチーズバーガーとアラモアナ付近にあるお店のロコモコがとてもおいしかったです。



## 現地学生との交流

上野 千佳 言語聴覚学科2年



### 言葉の壁を越えた交流ができました

私達は現地の学生と一緒に食事をしたり、プレゼントを交換したり、お互いに出し物をして交流を深めました。一緒に現地の伝統的な食べ物を食べた時は聖隷のロゴマークの青・赤・緑の色でデコレーションされたケーキを用意してくれました!プレゼント交換では、出身地の有名な物を交換し合いました。私はみかんを貰いましたが、お菓子やぬいぐるみを貰った学生もいました。出身地、家族、学校や普段の生活など多くのことを話すことができました。相互の出し物では、現地の学生にフラダンスを教えてもらいました。足腰の使い方が難しく、音楽に合わせたとたんに全くなりませんが、Good!という意味のハワイ語「マイカイ!」と、たくさん褒めてもらえてすごく楽しむことができました。私達は「ソーラン節」や「はないちもんめ」を行い、現地の学生も楽しんでくれました。言葉が伝わりにくくて大変でしたが、すごく楽しい1週間でした。



## 施設・病院見学

### 最先端の医療技術を目の前に感動の連続



藤岡 舞 言語聴覚学科2年

ハワイの施設や病院は日本とは違い、設備が非常に発達していました。印象に残ったのがシミュレーション室です。シミュレーション室には人間そのものの様なリアルな人形がベッドに置かれていました。その人形は、人間の様に「痛い」や「助けて」など訴えることができ、さらに体温もリアルに再現しており、アメリカの医療設備のすごさを実感できました。言語聴覚士の訓練室では、訓練の様子をカメラで撮影し、LIVE映像を違う場所で見ることができるようになっていました。大学では、過去の患者さんの症例を見るという事はありますが、LIVE映像を見る設備はないので、とても新鮮でした。アメリカの医療技術は発展しているとよく聞いていましたが、実際に最先端の設備を見学できてとても楽しかったです。



### 仕事としてでなく、患者さん第一の精神を



日置 将太 言語聴覚学科2年

今回の研修では、クリニックや大学の他に、小学校でも言語聴覚士の訓練の様子を見学することができました。日本では言語聴覚士の主な就職先は病院ですが、アメリカでは小学校が主な就職先です。各小学校に必ず一人言語聴覚士が駐在しなければならず、この点が日本とアメリカの一番大きな違いです。小学校の訓練では、訓練を行う側も受ける側も、笑いながら楽しそうに行っていたのがとても印象的でした。日本では淡々と訓練をしている印象でしたが、この訓練の様子を観て、一人ひとりの患者さんの特徴に合わせて訓練内容を変えていくことが必要なのだと感じました。言語聴覚士は、仕事で患者さんに対して訓練をします。その時に仕事だからと訓練するのではなく、患者さんの訓練の目的は何なのか、どうなりたいかを考え、患者さんのなりたいたい姿になれるように訓練することが大切だということを知ることができました。

日程	スケジュール
1	22:05 中部国際空港発 9:55 (アメリカ時間) ホノルル国際空港着
2	ハワイ大学マノア校ジョンAバーンズ医学部 見学、歓迎昼食会、学生交流会など
3	午前：講義：「失語症と認知症」「嚥下障害」 午後：現地学生との演習
4	午前：ハワイ大学マノア校キャンパスツアー 午後：臨床見学
5	午前：講義：「運動性発話障害」など 午後：討論会の見学、講義：「自閉症」
6	午前：小学校やクリニックでの臨床見学 午後：講演、学生交流会、修了式
7	終日：フリータイム
8	11:50 ホノルル国際空港発
9	16:10 中部国際空港着

## 国際看護実習

●概要 シンガポールは国の一大産業として医療整備を図っています。本実習の受入れ先は、国内2番目の規模を誇り、27の診療科と1,500床を有するタントクセン病院です。実習のプログラムでは病院実習のほか、訪問看護や看護師と共に地域の小中学校へ出向く地域保健活動等も含まれます。異文化における実習体験を通して、さらなる看護の魅力を発見します。



シンガポール: ナンヤン理工学院 / 2週間 (9月) 約20万円



参加者 VOICE

### 学びたい気持ち大切

実習中は、慣れない環境で大変なこともたくさんあり、楽しいことばかりではなかったが、だからこそとても充実した、そして達成感のある実習になった。

行く前は、日本での実習や国家試験の勉強が大変だったし、不安になることもあったけれど、参加して後悔は絶対ないと思う。

この実習では、シンガポールの看護を学ぶだけでなく、様々な出会いを通して、それ以上のものを学ぶことができた。この2週間を乗り越えたからこそ、自分が成長できた気がするし、これからも頑張っていける。何が出来るか出来ないではなく、「行きたい」という気持ち、「学びたい」という気持ちが一番大切だと思う。

シンガポールで過ごした2週間は一生忘れられない思い出になると思っている。

## 国際作業療法実習

●概要 シンガポールに3週間滞在し、人々の生活に触れながら人々の作業を理解します。地域で生活する人々を援助するために作業療法士は何をするのか、できるのかを、学びながら経験します。人々の生活と経験を理解するために、医学モデル中心の病院のほか、小児施設や訪問リハビリテーション施設でも実習を行います。また、より良い生活と人生を送れるように援助をし、地域に根ざした作業療法を実践している人達の働きを学びます。



シンガポール: ナンヤン理工学院 / 3週間 (3月) 約20万円



稲垣 智之

作業療法学科4年



### 自分の興味と視野が広がりました

私は、2年次にシンガポール研修に参加していました。その後日本での長期実習を経験し、さらに日本とシンガポールでの臨床現場での違いについて興味湧いたため、3年次に国際作業療法実習に参加しました。実際に総合病院では、保険料によって滞在環境に格差があることや様々な言語が飛び交っていること等、両国間の違いに驚きました。小児施設では自閉症児のアプローチについて詳しく説明を受け、その分野に関心が湧きました。また、訪問医療では、日本と異なりセラピストが利用者と一緒に買い物に行ったりバスに乗ったりして、日本でも訪問リハを見たことが無かったため新鮮な体験を得ることができました。今後、日本での残りの実習において、シンガポールの臨床現場で学んだことを基に異なる視点やアプローチを色々試してみたいと思っています。英会話や生活環境など不安な点は多くあるかと思いますが、非常に多くのことを得ることができるので本当にオススメです！

## 国際福祉実習

インド: 聖隷希望の家 / 2週間 約16万円  
韓国: 東明児童福祉センター / 2週間 約11万円  
ブラジル: 希望の家 / 2週間 約19万円  
東明老人福祉センター / 2週間

●概要 国際福祉実習は、社会福祉学部の選択科目であり、国際社会に貢献できる人材を養成するためのプログラムです。実際にアジアをはじめとする海外へ出掛け、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することで価値観の多様性や異文化を受容することを学び、国際的な視野を養うことを目的としています。



伊藤 綾芽

介護福祉学科4年



### 海外だから得られたもの

私が国際福祉実習へ参加した理由は、介護福祉の概念がない国での支援方法に興味を持ったからです。実習を通して、インドと日本は価値観などが全く異なっていて、今の日本での生活は決して当たり前ではないことを学びました。初めての海外で、英語もあまり分からない中、「聖隷希望の家」のアブラハムさん、施設の先生方や仲間へ支えられ、実習を楽しみながら行えたことは、自分の自信にも繋がりましたし、日頃から感謝の気持ちを持てるようになりました。この実習は、大学生の今だからこそ出来ることです。海外へ出ることのできるものが多くあるので、ぜひ挑戦してみてください。



伊熊 公一

介護福祉学科4年



### 自分自身を見直す事ができました

私達は小学校などの教育機関のほか、老人・障がい者・ストリートチルドレンなど多くの方が生活を共にする施設を巡りました。ある施設は、施設内に建物や共有スペースがいくつも用意され、様々な年代や人生を持った方が共に生活をするというまるで1つの街のようでした。日本にはないその光景からは、利用者の可能性をどのように活かすか、環境をどう活用していくかが専門職に問われているように感じました。聖隷グループの施設で日常生活を送りながら実習を行う事で、インドの日常生活を捉えながら、生活問題を対象とするソーシャルワークの本質に触れることができました。常に自らの周りに生活問題が隠れていて、それらに気付く感性を養う事が重要だと気付かされました。また、日本で行われているソーシャルワークや自分自身のあり方についても捉え直していく良い機会となりました。



松村 奈緒美

社会福祉学科3年



### 環境の違いと感動体験

インドでは主に車で移動しましたが、電車やバス、オートリキシャといった公共交通機関を使って観光をした日もありました。電車は日本に比べて速度が遅く、開放的なつくりでした。電車に向かってのは現地の人が集まるビーチで、日本とは違い茶色でザラザラとした砂浜でした。インドはとても自然が豊かで、自然公園では鹿を間近で見ることができ、象の飼育センターでは乗象体験もすることが出来ました。宿泊先の町の商店街へ連れて行ってもらって買い物をした日もありました。とにかく沢山の品物が並べられていて店内がとてもカラフルでした。普段の食事は宿泊先のお母さん、シーラさんが作ってくれて私達にも食べやすく、とてもおいしかったです。



谷沢 珠子

社会福祉学科3年



### 制度にとらわれない考え方を学んだ

聖隷希望の家での生活内容は、利用者さんは4つのクラスに分かれ、数学を勉強したり文字を書いたり、色塗りをしたりと様々だった。日本の文化を知ってもらうため一度だけ授業にお邪魔させて頂き、利用者さんとふれ合いながら折り紙で鶴を作ったり、風船を使ってパレーをしたりした。皆さん私が作っているのをよく見て真似していた。折り紙で何かを作り終わると拍手をしてくださるととても喜んでくれた。礼拝も行い宗教も大切にしていた。日本との施設の違いは、施設長のアブラハムさんは制度に囚われることなく「今」必要なことは何かを考え実践し、「今」困っている人を助けていた。そんなアブラハムさんの姿を見て、制度に囚われていたら本当に困っている人を援助の対象にできないと思った。「できる・できない」は関係なく、利用者さんにやりたいことをやらせてあげていて、施設の職員さんも一緒になって楽しく暮らしていた。

## サミュエルメリット大学研修生受入れ

サミュエルメリット大学(SMU)はアメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコ近郊にある保健医療系の学部・大学院をもつ大学で、米国西海岸を代表するヘルスサイエンス系大学として知られています。本学とは2013年11月に大学間交流協定を締結し、2015年6月より、毎年看護学部の研修生を10名程受入れています。

プログラムでは、学内施設や聖隷グループの保健医療福祉施設の見学、講義の聴講や演習への参加を通して日本の看護について学びを深めます。他にも本学学生との交流会やバスを借りての市内観光、SMUの学生と一緒に受けることのできる講義・演習などのプログラムがあります。



高齢者疑似体験



災害看護論



浜松市内観光



聖隷歴史資料館見学

## ナンヤン理工学院研修生・実習生受入れ

ナンヤン理工学院(NYP)は、1992年に設立された、シンガポールを代表する医療・理工系等の国立専門職養成高等教育機関です。シンガポール政府との連携により、ヘルスケア専門職養成における中心的な役割を担っています。2006年4月の交流協定締結後、毎年20名程の研修生、2名ずつの看護及び作業療法学科の実習生を受入れています。

各プログラムでは、日本のヘルスケアに関する講義の聴講・演習、聖隷関連の病院・施設の見学を通して日本の保健医療福祉について学びます。また、市内観光、学生交流会、茶道部主催の茶道体験、ワークショップなど、本学学生がNYP学生と共に学び、楽しめるプログラムが用意されています。



茶道体験



本学学生とのワークショップ

## 学内で参加可能な国際交流プログラム

### 国際交流イベント

本学では、学生の国際感覚を磨き、視野を広げる経験になると位置づけ、様々な国際交流イベントを開催しています。

2015年度は、カナダ人講師を招いて、英語でコミュニケーションを取りながらカナダ料理を作るイベントを実施しました。参加した学生は、英語を使って皆で一緒に調理をし、美味しい料理を満喫していました。

今後も英語圏や中国語圏の異文化体験イベントを開催していきます。イベントの情報は、詳細が決定次第、国際交流センターホームページや学内掲示板にてお知らせします。



### 海外研修・実習生のホストファミリー

海外からの研修生や実習生の受入れプログラムでは、ホームステイを実施しています。海外の学生が、家族の一員として生活する中で、日本の文化や生活習慣等の違いを肌で感じ、異文化に対する理解を深めてもらうことが目的です。

また、本学の学生にとっても、海外の学生と密に交流できるため、新しい価値観を吸収し、海外の友人を作る大変良い機会となります。ホストファミリーは随時国際交流センターホームページや学内掲示板にて募集します。



### 海外研修・実習生との交流会

受入れプログラムの中で、本学学生が企画や準備の段階から主体的に参画して実行するのが「交流会」です。交流会では、ゲームやダンスなどの出し物などで大いに盛り上がり、異文化交流の楽しさを肌で感じる事が出来ます。毎回、多くの学生が参加をして海外からの学生を温かく迎えていますので、ぜひ気軽に参加して楽しんでみてください。

